

# 技術士第二次試験奮闘記

～がんばればきっと、夢はかなう～

平成24年4月21日(土)



株式会社  
アーバントラフィック エンジニアリング

技術士(建設部門・道路)

金高 智之

# 目次

1. 自己紹介
2. 私の受験歴
3. 勉強時間
4. 勉強方法
5. 不合格のポイント
6. 合格のポイント
7. おわりに

# 1. 自己紹介

○氏 名：金高 智之（かねたか ともゆき）

○生年月日：昭和50年5月7日生まれ（36歳）

○出身地：埼玉県草加市

（寿司屋の息子として生まれる）

○出身学部：法学部

○所 属：株式会社 アーバントラフィックエンジニアリング

○入社経緯：就職をあきらめかけた大学6年生の11月、たまたま交通量調査のアルバイトをした際に社長に拾ってもらう。

○職 歴：平成12年4月 東京事務所に入社

平成16年4月 福岡事務所に転勤

平成20年9月 広島事務所に転勤

平成21年4月より、所長として業務、後輩育成にあたっています。

## 2. 私の受験歴

年次	合否・判定結果
平成20年	技術士第一次試験（建設部門）合格
平成21年	技術士第二次試験（建設部門・道路）不合格 ※判定 必須課目：A判定 選択科目：C判定
平成22年	技術士第二次試験（建設部門・道路）不合格 ※判定 必須課目：A判定 選択科目：B判定
平成23年	技術士第二次試験（建設部門・道路）合格 ※判定 必須課目：A判定 選択科目：A判定



3度目の挑戦でようやく技術士第二次試験に合格

### 3. 勉強時間

勉強の効率化も大切ですが、忙しい中で最低限の勉強時間を確保することはもっと大切だと思います。

参考までに、私の大まかな勉強時間は次のとおりです。

開始時期

4月中旬頃

1日の平均勉強時間

平日：1～2時間

休日：6～8時間

つまり、1年間で278時間、3年間で834時間

※勉強をできない日もあるので、勉強期間を3か月（90日）と想定

※平日：64日×1.5時間、休日：26日×7時間で計算



できれば300～500時間を目標に計画を立てたい

## 4. 勉強方法 / ①私の勉強方針

①山はかけず、出題が予想される分野について、網羅的に勉強。

②骨子法を使い、各分野に関する「現状」、「問題点」、「解決の方向性」、「具体策」をB5のルーズリーフに整理。

⇒論文はあまり書かず（いつでも論文にできるレベルで骨子作成）、骨子は「手書き」で作成

③問題点～具体策は最低3つ整理

⇒他人の答案や雑誌、HP等を漁り、自分の納得できる流れを整理。

⇒しっかりと固めた問題点～具体策の流れは、様々な分野に横断的に使えるため、最初から3つに絞り込まずに広く整理を行うことで、引き出しが増える。

（絞り込むのは最後で十分）

## 4. 勉強方法 / ②骨子法から論文へ

### ①「現状」⇒はじめに

- 題意の背景や現状を整理する。
- そこから問題点の抽出につながる形が理想的

### ②「問題点」・「方向性」⇒〇〇に取り組む上での課題

- 以下の形で整理することが多かった。  
「〇〇が問題となっている。このため、△△が課題である。」  
そこで、△△を行う必要がある。」

### ③「具体策」⇒今後の取組に関する私の考え

- ②で抽出した問題点との対応に注意しながら、具体策を記述。

### ④「おわりに」では「自分らしさ」や「幅・深み」を出す。

- 自分の経験や地域のことに結び付けて記述。
- 「以上、〇〇について記載してきたが、△△を行う上では◇◇な視点も重要である」等で論文の補足を行う。

※ただし、「おわりに」を書く余裕がないことも多々ありました。

## 4. 勉強方法 / ③骨子法での整理分野

- 「全分野を網羅する」というと途方もないボリュームに思えますが、私が最終的に整理した分野は次の**33分野**（途中の統廃合はありますが。）
- 完璧ではありませんが、これである程度網羅できていたと思います。

必須課目		選択科目	
1	品質確保	24	信号交差点における円滑な交通確保
2	維持管理・更新	25	自転車
3	地域活性化	26	費用便益分析
4	真に必要な道路	27	無電柱化
5	アセットマネジメント	28	ICT
6	公共工事の減少と技術力の維持向上	29	事業評価
7	道路構造令の弾力的運用	30	渋滞対策
8	自然災害	31	事故対策
9	海外進出	32	スマートIC
10	PI(パブリックインボルブメント)	33	交通基本法
11	ユニバーサルデザイン		
12	観光立国		
13	財源確保		
14	工事の品質確保		
15	グローバル化		
16	都市が抱える問題		
17	巨大地震		
18	地球温暖化		
19	建設技術者に求められる能力		
20	循環型社会		
21	美しい国土景観の形成		
22	環境		
23	PFI・PPP		

※必須課目と選択科目は明確に分かれている訳ではないため、整理の段階では特に区別はつけませんでした。





# 5. 不合格のポイント

技術士第二次試験で不合格となった原因は次の点にあると思います。  
(他にも足りない点は多々あったと思いますが。)

## 1年目における不合格のポイント

●勉強が必須課目に偏ってしまい、選択科目の勉強が不十分だった。  
⇒その結果、必須課目はA判定だったが、**選択科目はC判定**。

○選択科目は「経験便り」だけでは不十分。これまでの経験を、問題点の抽出から解決策の提示まで、小論文に耐えるレベルに磨きあげる必要がある。

## 2年目における不合格のポイント

●選択科目のうちの1問で、問題点の抽出をしないまま解決策を述べてしまった。

⇒2年目は万全を期したつもりだったが、**選択科目がB判定**。

○問題文に「問題点を示し」もしくは「課題を示し」という文言がなくても、解決策を提示する上で**問題点の抽出は不可欠**。

## 6. 合格のポイント / ①筆記試験

### ①「水炊き塾」(技術士試験勉強会)への参加

- 3年目は森岡氏主催の「水炊き塾」に参加。  
⇒僕は中小企業の社員であるために、これまで情報が集まらなかったが、**森岡氏や勉強仲間からいただく情報**が非常に役立った。  
⇒月に1度の勉強会が勉強の**ペースづくり**に有効だった。

### ②直前模擬試験でのB判定

- 自信を持って臨んだ本番直前「**SUKIYAKI塾**」の模擬試験でB判定。  
⇒講師の方に**B判定の理由**を教えていただき、自分がつくった「問題点」～「具体策」の流れに不十分な点があることが把握できた。  
⇒これまでに作成した骨子の再チェックを行い、「問題点」～「具体策」の流れが悪いものは先輩の添削を受け、**独りよがりな意見**を修正することができた。

## 6. 合格のポイント / ②技術的体験論文

### ①多くの方に添削いただいた

- 「水炊き塾」の森岡氏や青年技術士交流会の高木委員長、会社の先輩と3人の方に論文を見ていただき、ブラッシュアップを重ねることができた。  
⇒「技術士としてふさわしい点」とは何かが少しずつ分かってきた。  
⇒最終的には、最初に作った論文とは**比べものにならないレベル**に押し上げていただいた。

### ②思い入れのある業務を選択

- これは意見が分かれるところだと思いますが、僕はこれまでに携わった業務の中で一番思い入れがある業務について詳述論文を作成。  
⇒思い入れがある分、後追いながらも、「この業務の中で技術士としてふさわしかった点はどこか」について、**悩み続ける**ことができた。  
(論文の提出が終わっても、面接の直前まで考え続けました。)  
⇒みなさんからの助言をいただきながら、面接直前に、最終的に1つの答えにたどり着いたとき、ようやく「行ける」気がしました。

## 6. 合格のポイント / ③口頭試験

### ①2度の模擬面接

- 「**SUKIYAKI塾**」口頭試験セミナー、青年技術士交流会主催の模擬面接と2回の模擬面接の機会を提供いただいたことで、**自分の至らぬ点が把握**でき、また、**場慣れ**ができた。

⇒一番注意を頂いた点は「**話が長い!**」

自信のない質問ほど、「物量で補おう」という発想に陥っていた。

⇒「**1問1答**」、「**会話のキャッチボール**」を心がけて面接に臨んだ。

### ②ともに模擬面接を受ける仲間が存在

- 筆記試験に合格した「**水炊き塾**」メンバーとの**情報交換**が非常に有効。

- また、試験当日も**試験前の時間を共に過ごす**ことで、緊張を和らげることができた。

### ③最後は楽しもう

- ドアの前で自分の出番を待つ約5分間、呼吸を整え、最後に思ったのが「**大勢の方に応援していただいた**」、「**やるだけのことはやった**」「**最後は楽しもう**」。

⇒ふと緊張が和らいで、緊張せずに本番に臨むことができた。

## 7. おわりに

- 今年度はゴールデンウィーク明けから勉強を始め、3月5日の口頭試験合格発表まで実に10カ月間。
- 終わってみて改めて、「技術士試験の大変さ」とつくづく感じました。
- 本当にたくさんの諸先輩方に信じられない程親身なご支援いただき、逃げだしたくなるような不安と戦い、会社のメンバーに負担をかけて勉強時間をつくり、3年間をかけてようやく、技術士になることができました。
- 合格を知ったとき、「やったー」よりも、正直「ほっ」としました。
  
- 一人で勉強していた最初の2年間ではなく、大勢の方にご支援いただいた今年に合格することができたから、「僕もお手伝いをさせていただきたいな」と心から思っています。
  
- 周りには、技術士になることを応援してくださる方が、信じられないくらいたくさんいました。
- そんな力強い応援があるのだから、がんばればきっと、夢はかなうと思います。
- 今年の皆様のご健闘を、心よりお祈りしております。